

シグマ研究委員会核データ評価W.G.・重核S.W.G.  
1983年度第1回会合議事録

日 時 1983年4月15日 13:30~17:30  
場 所 原研本部 第7会議室  
出席者 菊池(原研), 神田, 大沢(九大), 村田, 吉田(NAIG), 松延(住原工), 瑞慶覧(日立), 錦織(阪大, オブザーバー)

配布資料

- (1) JENDL-2 final document samples (Np-237, Am-241, Cm-243)
- (2) JENDL-2 File 1 作成上のコメント

議 事

1. JENDL-2 documentとfile 1 作成の依頼  
資料(1), (2)に基き, JENDL-2の重核評価者へfinal documentとfile 1の原稿依頼が核データセンターよりなされた。
2. 重核S.W.G.発足の趣旨説明
  - 菊池核データ専門部会長から, 1983年3月22日のグループリーダー会合で, 今年度から重核S.W.G.を発足させる事の決った経緯の説明があった。
  - その趣旨としては
    - 1) JENDL-3のため重核の再評価は必要である。
    - 2) 感度解析の結果も出て来ており, 本格的な同時評価も考えられる。
    - 3) 同時評価は特定機関に委託も考えられるが, 連絡機関としてのS.W.G.は必要である。
    - 4) メンバーはとりあえずJENDL-2の重核評価者を中心にして発足する。
3. JENDL-3での重核の問題点
  - a)  $\alpha$ の評価  
委託により九大で検討している。
  - b)  $\nu$ の評価 (Cf-252を含む)  
委託により住原工が検討している。
  - c) Deformed Optical Modelの採用  
大沢委員(九大), 菊池委員(原研)が検討している。

本年度中に統計モデルとの統合も含めて整備する予定。

中間段階で、S.W.G.で勉強会を持つ。

d) Simultaneous Evaluation

このS W G の本年度の中心課題。

九大で行っている方法を勉強する必要がある。

実験データの共分散をどうするかが問題。

c) 実験法S.W.G.との協力

なるべく合同会合の形をとる。

4. 対象核種と評価担当者の決定

JENDL - 2 の経験を生かせるように考慮して表 1 のように分担を決めた。

5. S.W.G.のメンバーの決定

神田, 大沢 (九大), 松延, 浅野 (住原工), 浅見 (明) (高エネ研), 村田, 川合, 吉田 (NAIG), 瑞慶覧 (日立), 宝珠山 (FBEC), 菊池, 中島 (豊), 中川 (原研)

S W G のリーダーは, 9月から中川委員 (原研) とする。それ以前は菊池委員が代行する。

6. 当座の作業予定

- 次回 (第 2 回) : 5 月 2 7 日
  - ・ 九大の同時評価法の紹介
  - ・ JENDL - 2 以後の実験値の Review
- 第 3 回
  - ・ 実験法S W G の話を聞く
- 第 4 回
  - ・ Deformed optical model の勉強会

JENDL - 3 対象核種と評価者

Nuclide		JENDL - 2 評価者	JENDL - 3 評価者	備 考
Th	228	大沢	△	
	230	"	△	
	232	"	大沢	
	233	"	△	
	234	"	△	
Pa	231	-	(菊池)	
	233	神田 (JENDL - 1)	(大沢)	
U	232	-	(菊池)	
	233	松延, 浅野, 菊池	浅野, 菊池	
	234	浅見 (哲) (JENDL-2)	(大沢)	
	235	松延, 浅見 (明)	松延 (中島 or 中川)	8 月以後決定
	236	吉田	△	
	238	神田, 中川	神田 (中島 or 中川)	8 月以後決定
Np	237	神田	△	
	239	神田 (JENDL - 1)	△	
Pu	236	宝珠山	△	
	238	"	△	
	239	川合, 吉田	川合	
	240	村田, 瑞慶覧	村田, 瑞慶覧	
	241	菊池	菊池	
	242	川合, 村田	川合, 村田	

△：見直し程度